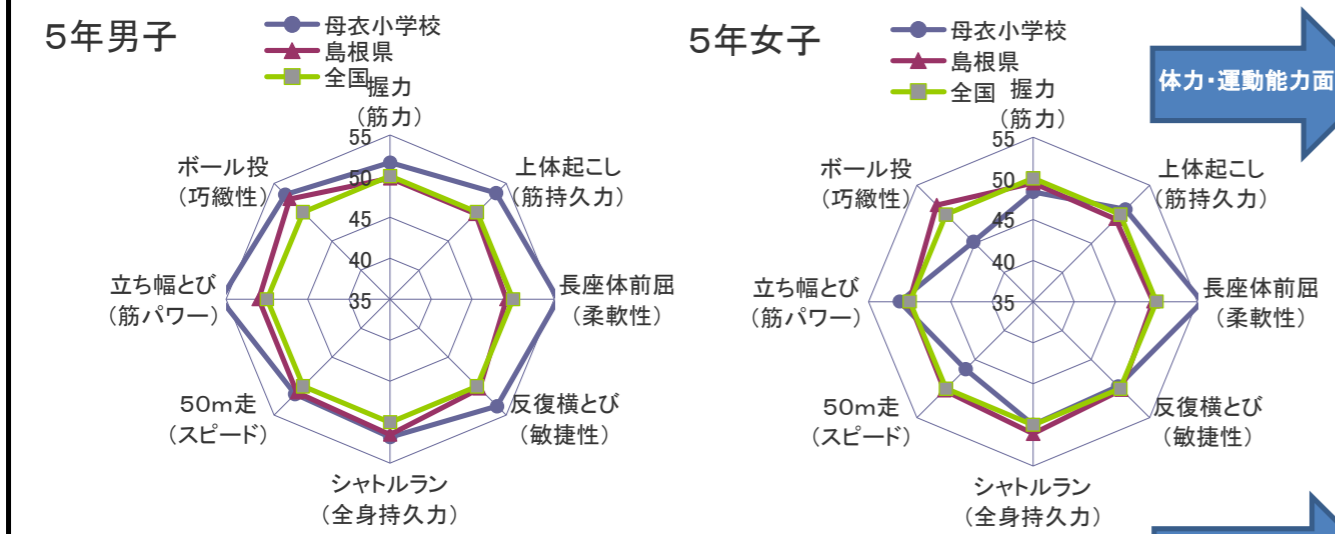
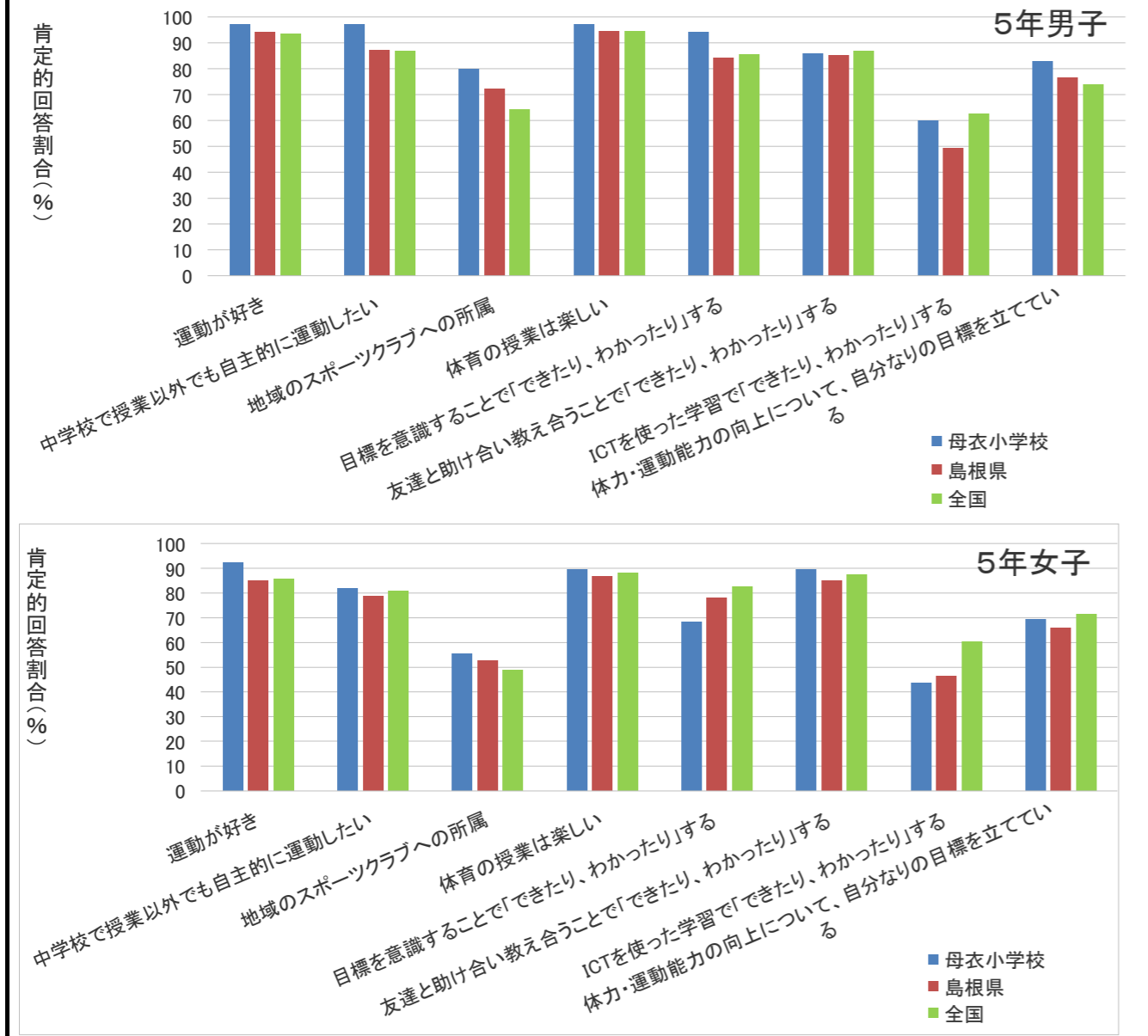


(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果  
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	1.7	3.3	5.5	3.4	1.8	1.4	5.6	3.0
女子	-1.6	0.9	5.6	-0.4	0.0	-3.4	1.2	-4.7

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】  
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	中学校で授業以外でも自主的に運動したい	地域のスポーツクラブへの所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する	体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている
男子	3.7	10.1	15.6	2.5	8.7	-1.1	-2.6	9.0
女子	6.5	1.5	6.5	1.4	-14.1	2.0	-16.6	-2.1

【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】  
弱み ← → 強み

(3) 令和8年度の方針【学校全体での取組】

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較から

- ・男女ともに、柔軟性に一定の成果が見られる。男子は、さらに筋パワーの数値が全国を上回っている。
- ・一方で、スピードや投能力等一部の運動能力に課題が見られる。
- ・また、男子は全体的にプラスの値が多くバランスよく体力が発揮されているのに対し、女子は種目による差が大きい傾向が見られた。

② 意識面・全国(割合パーセント)との比較から

- ・男子は、運動への主体性や目標意識が高い傾向が見られる。
- ・女子は、運動を好む意識はあるものの、目標設定や学習方法に関する意識に課題が見られる。

③ 結果を踏まえて

- 男女の結果を比較すると、柔軟性(長座体前屈)は男女ともに高い値を示しており、本校の児童の特徴として柔軟性の高さが挙げられる。一方で、女子はスピードや投能力において男子との差が大きく、特にボール投げの差が顕著である。これは日常的な運動経験やボール運動の機会の差などが影響している可能性が考えられる。
- 分析結果を踏まえ、以下のような指導の方向性が考えられる。
- ・短距離走やダッシュ運動を取り入れ、スピード能力の向上を図る。
  - ・ボール運動を積極的に取り入れ、投動作や巧緻性の向上を目指す。
  - ・体育学習のウォーミングアップとしてサーキットトレーニング(5種目歩走)を取り入れ、全身持久力を高める。
  - ・男女それぞれの体力特性を踏まえた運動機会(体力づくりチャレンジカード)を増やし、体力のバランス向上を図る。

今後は本結果を踏まえ、体育授業や日常的な運動活動を通して、体力のバランスのとれた向上を目指していくことが重要である。